

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	千駄刈の森エリアの市民参加による希少種保全事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人 蓼科・八ヶ岳国際自然学校 茅野市北山 5513 番地
事業区分	(5) 環境保全、景観形成に関する事業、(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	455,782 円 (うち支援金: 364,000 円)

事業内容

自然学校が活動するエリア内に生育しているコゴメヒョウタンボクが鹿による被食等で急速に減少していると推測される為、その保全事業を実施。

- ・同種の生育地に鹿よけ保護棚の設置
- ・推進されている鹿対策としてジビエ料理の試食
- ・コゴメヒョウタンボクの生育状況調査、植生調査をかねた観察会の実施5回(6月~11月)

>6/9 午前 千駄刈の森シラビソ林内のコゴメヒョウタンボク生育地約 35m×80m のエリアに保護棚設置の為、支柱を一定間隔で設置。昼食のジビエ料理試食により参加者に鹿対策を身近に体験してもらう。

6/9 午後 第1回観察会;同種の植生等を携帯型実体顕微鏡により観察 >7/13 午前 設置した支柱に沿ってネットを張り固定する作業を行う。7/13 午後 第2回観察会 >9/14 第3回観察会 麦草峠付近にて同種を確認観察した。 >10/20 第4回観察会 講師指村氏によりスイカズラ属希少種の分布、生態等広く学ぶ。 >11/27 第5回観察会 棚内外の生育状況の変化を観察



【6/9 保護棚設置作業】



【7/13 保護棚設置作業】

事業効果

鹿による被食現場を実際に観察することで、植物の絶滅の危機を蓼科・八ヶ岳の身近な問題として認識していただくことができた。また絶滅危惧種に具体的に接することで、似ている種との見分け方、植物観察や個体を探すことにも親近感を持っていただき今後のトレッキングや自然観察の際の植物の見方も変わり、保護活動の普及となった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

鹿よけネット内外の生育状況を把握し保護棚の効果を検証する。(成長量、開花・結実個体数の調査)

*経過が出るまで数年を要する見込みのため、継続調査を実施する。

・蓼科・八ヶ岳のコゴメヒョウタンボク自生地の観察会を実施、同種他の希少種・絶滅危惧種の現状を学び、蓼科八ヶ岳の自然の貴重に理解を深め環境保全の意識を高める。



【10/20 第4回観察会】



【6/9 第1回観察会】



【11/27 第5回観察会】



【7/13 第2回観察会】

- ① 絶滅危惧種の保全
- ② 絶滅危惧種の周知
- ③ 鹿問題への取り組みの周知
- ④ 環境保護活動の一環

【目標・ねらい】

※自己評価 【C】



【9/14 第3回観察会】

【理由】

- ・保全活動の一環を実施
- ・絶滅危惧種への興味を啓発活動を実施
- ・今後につながる活動の一步を開始することはできたが広報に工夫が必要